

# 北明やまざと幼稚園

森と川と遊ぶ幼稚園

- ・ 定員120名  
年少3クラス、年中2クラス、年長2クラス
- ・ 週5回の完全給食  
(月1回お弁当の日があります)
- ・ 送迎バス4台
- ・ 勤務時間8:00~18:00の中で8時間
- ・ 預かり保育、通常14:00~18:00  
長期休業中9:00~18:00

やまざるちゃん☆ねる



ざっそうのようにつよいところとからだ

遊び = 生活

子ども達にとって、生活そのものが遊びであり、遊ぶことが生活すること。

つまり、遊びを通して、

生きることに必要なことを獲得していく。

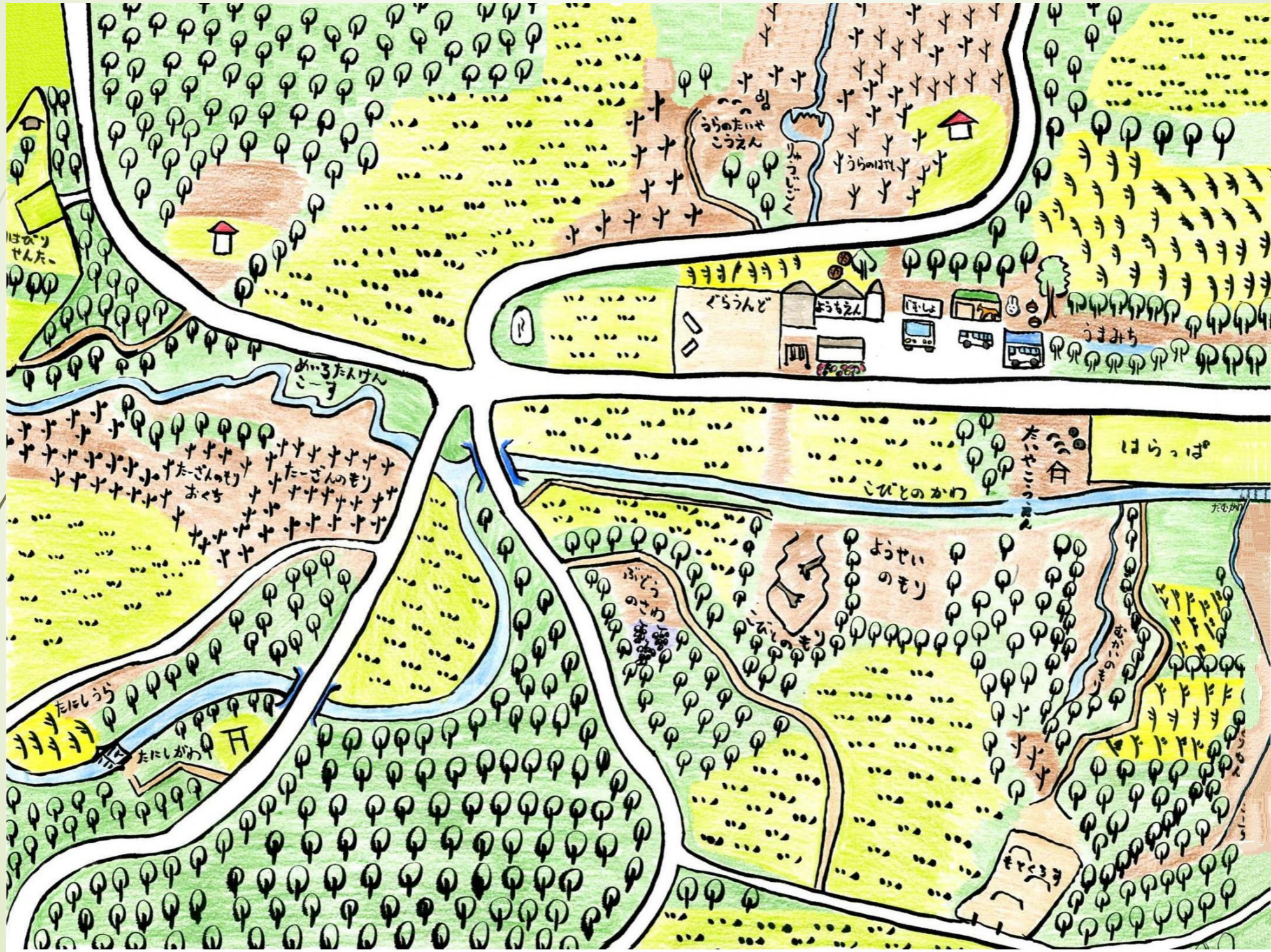
# やまざと保育の三本柱

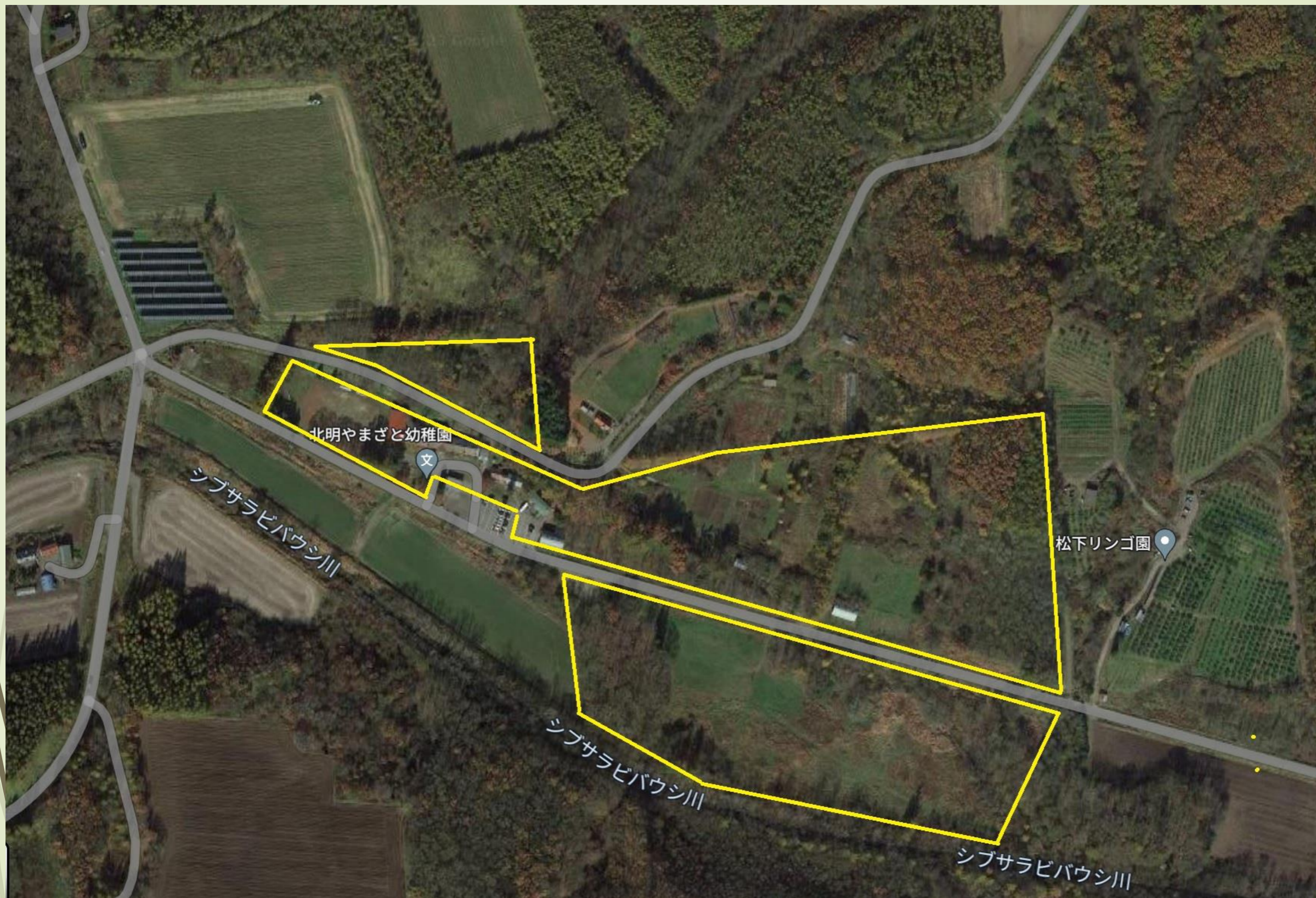
豊富な自然環境で繰り広げられる  
『さんぽ』

畑作りから収穫まで  
『やまざと食農プロジェクト』

生命との触れ合い  
『やまざと牧場』

# さんぽ





# おさんぽ





# 自然・地面・土に触れることに意味 外に出ることに意味

幼児期は身体の形態面、機能面の発育・発達が著しく進む時期

運動能力の地域差・年齢差・性差が生じる原因として、神経系統の発達・成熟度の違いが考えられる。

# 自然・地面・土に触れることにより

- ・悪い体内イオンの放出
- ・免疫力の向上
- ・五感の成長
- ・大脳への刺激
- ・運動能力の向上

# 運動能力の高い子どもは特に

- ・ 抽象能力
- ・ 語彙能力
- ・ 構成力
- ・ 知覚、運動、速度
- ・ 想像能力

が優れていることが示されている。

自然体験を通して得られる自尊感情、共生感、意欲・関心、規範意識、人間関係などを「体験の力」として調査すると、幼少期から中学生期までの体験が多い高校生ほど思いやり、やる気、人間関係能力等の資質・能力が高い、という結果。

- ・ 五感の成長
- ・ 大脳への刺激
- ・ 運動能力の向上・悪い体内イオンの放出
- ・ 免疫力の向上
- ・ 五感の成長
- ・ 大脳への刺激
- ・ 運動能力の向上

国立青少年教育振興機構調査

子ども達にとって外の遊び・ふれあい・学びは

良い経験

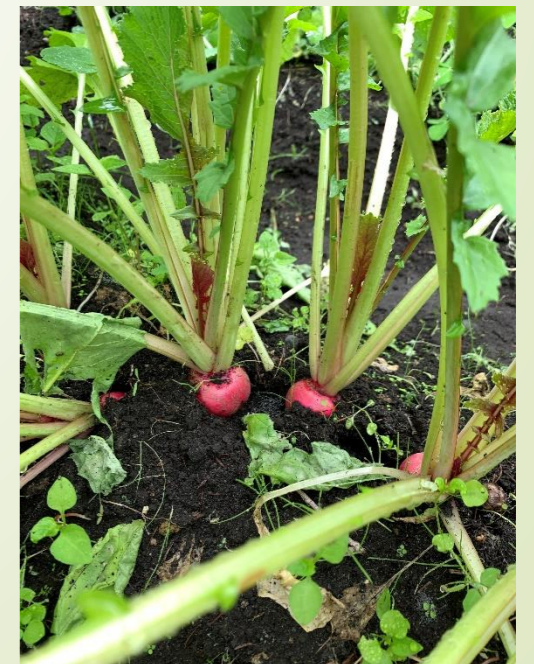
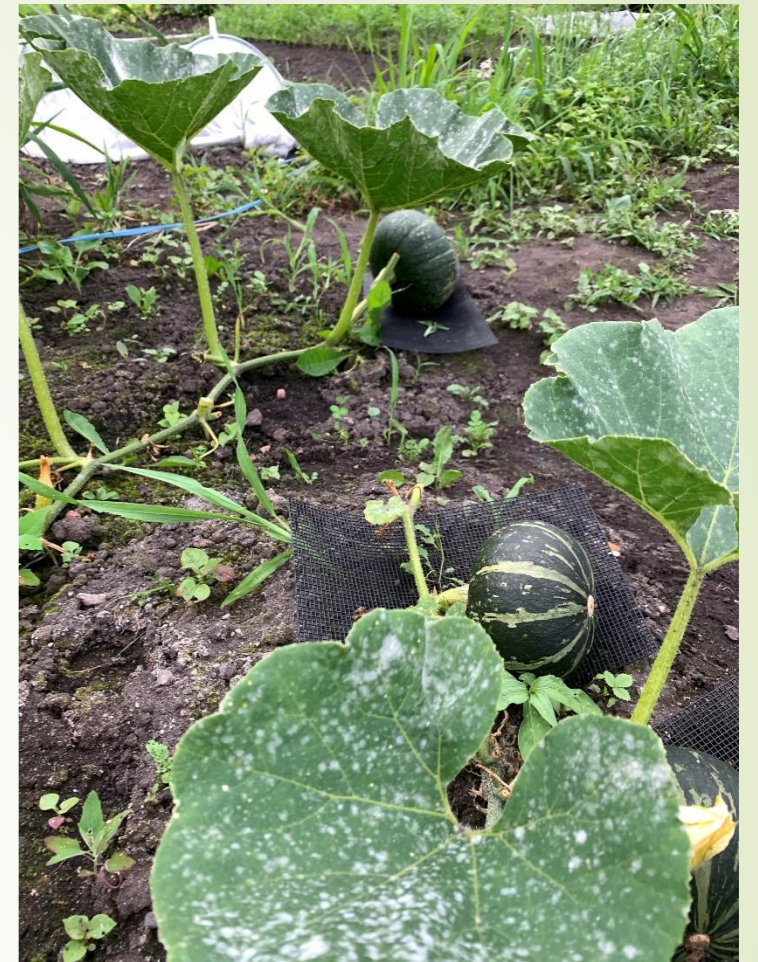
ではなく

必須

# やまざと食農プロジェクト

やまざと食農プロジェクトのねらい

- ・ 地域の基幹産業を知る
  - ・ 農業に興味を持つ
- ・ 作物ができるまでの過程を知る
  - ・ 収穫の喜びを味わう





～大豆～

枝豆  
味噌  
きな粉



# ～食～





# やまざと牧場

やまざと牧場のねらい  
動物飼育により、食・住環境を子ども達自身が整えることで、食べることの大切さ、清潔確保の必要性をはじめとする命の大切さを体感できる情操教育を行なう。



# 共に暮らす



# やまざとっこまつり / やまざと市場





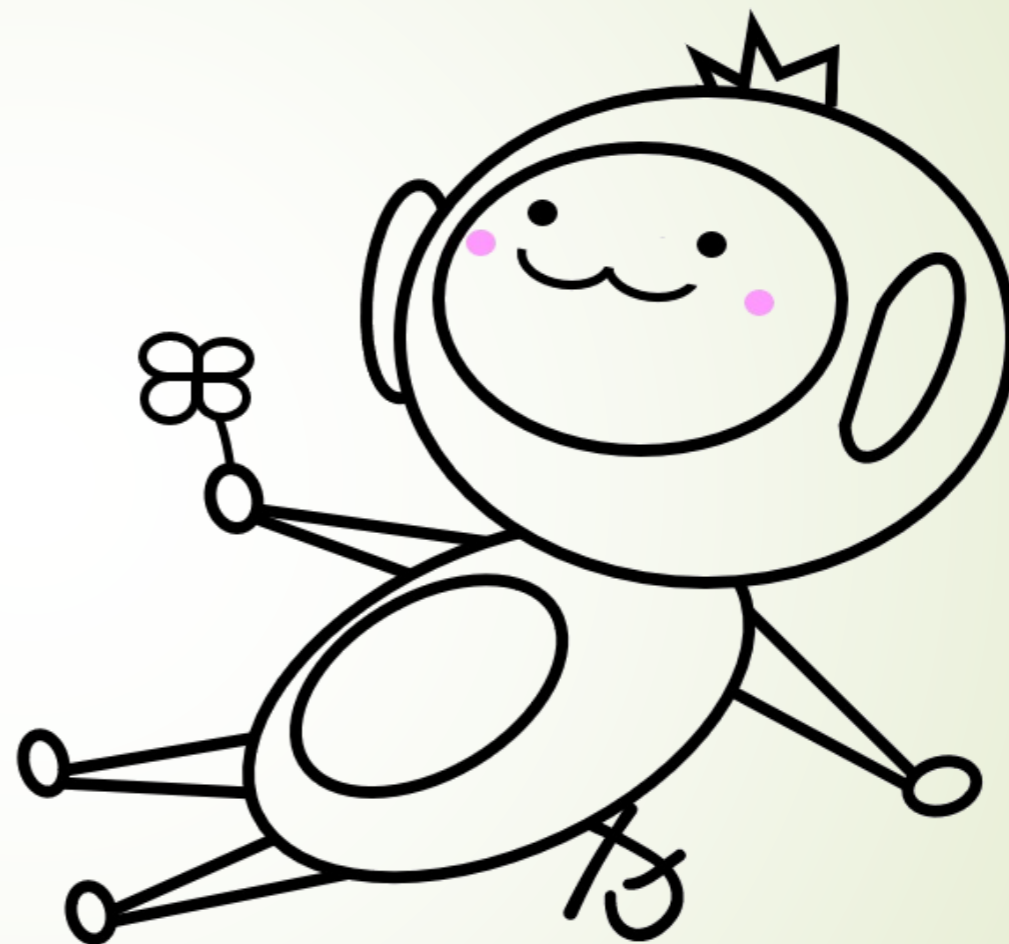
# イルミライ(一般開放)



幼児期は神経がみるみる発達するとても大事な時期です。

当園では、お勉強ではなく生活、つまりは遊びで大事なことを得ていくことができることを大切にしています。

当園の保育方法は環境的に特殊ではありますが、そういった所も踏まえて知っていただけると幸いです。



<https://yamazato.midori-g.ac.jp/>

